

## 令和3年度 東京都立八丈高等学校 定時制課程 学校経営報告

東京都立八丈高等学校長  
佐藤 俊一

### 1 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動への取組と自己評価

	取組（方策）	成果と今後に向けて（自己評価）
学習指導	<p><b>目標：グランドデザインに基づいた新教育課程の編成と、魅力ある教育活動、進路希望の高いレベルでの実現を目指した授業の充実化</b></p> <p><b>方策と数値目標：授業満足度（肯定的評価）100%（前年度98%）</b></p> <p>(1) 教員の資質・能力向上のため、個人の研鑽をはじめ、オンラインによる教員研修、授業研究など、計画的、継続的な校内研修体制を確立する。</p> <p>(2) 文科省の地域協働推進校につなげる取組として、高大連携や地域と協働した探究的な学びを推進し、地域課題解決に挑戦する創造的な人材を継続して育成する。</p> <p>(3) 島内の小・中学校との教科間及び学校間連携のため、町教委主催の教育研究会の各部会に参加するなどして、情報の共有化及び指導と評価の内容や方法の改善を図る。</p> <p>(4) IT化推進や、ICT教育機器の活用を推進する。</p> <p>(5) 全教育活動を通じて、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際交流など八高レガシーを構築する。</p> <p>(6) ハワイの高校や大学と連携、姉妹校協定を推進し、教育内容の充実化、魅力化を推進する。</p>	<p>(1) 「振り返り週間」を定着させるとともに、校内研修により、質の高い教育活動に向け、教科横断的な成果検証を行った。</p> <p>学力向上の取組として授業時数の確保をするとともに、自らが主体的に学び考える態度の育成を目指し生徒一人一人の到達度・理解度に応じた講習・補習等の指導を行った。</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間」及び各教科を通じ、地域協働を軸とした深い学びを実践した。生徒たちの非認知能力（人間関係形成能力や情報活用能力）の育成につながった。</p> <p>(3) 「観点別評価」について、島内の小・中学校からの情報をもとに、継続的な「指導と評価の一体化」について研修を実施した。</p> <p>(4) 教員全員がミニマムスキル以上のICTの知識と技術を身に付け、teamsを積極的に活用した。また、台風等の災害時でもオンラインにより教育活動を続ける準備体制も整えた。</p> <p>(5) オリンピック・パラリンピック八高レガシーとして生の音楽に触れる情操教育「文化プログラム」を実施した。</p> <p>(6) コロナ禍のため、オンライン及び文通によるハワイの高校との交流を行った。</p>
生活指導・健康づくり	<p><b>目標：生徒の健全育成と心身の健康体力の向上</b></p> <p><b>方策と数値目標：中途退学者ゼロ（前年度ゼロ）</b></p> <p>(1) 生徒情報の共有にとどまらず、家庭等と連携した指導計画を作成し、個別支援体制の強化を図る。</p> <p>(2) 関係機関等との役割分担や協力体制について協議し、サポートチームを</p>	<p>(1) 中途退学者2名（島外生徒 健康状態の不安）。</p> <p>(2) ・個別支援会議を年間38回開催し、転学生・転籍生を含めた生徒の支援について共有化を図り、個に応じた対策を講じた。</p> <p>・SCによる教員向け校内研修を4回開催し、ジェンダー問題など特別支援教育等について理解を深めた。</p>

	<p>強化して、」一人暮らしをする生徒への支援体制充実を図る。</p> <p>(3) 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>(4) 学校保健計画に基づき、生徒の健康の保持増進を図り、健康教育を適宜推進する。また、健康診断の結果を活用して、生徒の健康維持や体力向上を図り、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>(5) 学校全体で感染症の予防と拡大防止に努める。</p>	<p>・一人暮らし生徒の家庭訪問を実施するなど、各関係諸機関と連携した「見守り体制」を継続した。</p> <p>(3) 学校行事の参加率80%以上を達成し、生徒たちが主体的に企画、提案、運営、改善といった活動を行うことができた。「構成的グループエンカウンター」を1年生で実施し、自己肯定感や他者との関わり方への意識付けと社会性の育成につながった。</p> <p>(4) ・栄養士による年に3回の食育講話及び給食後の歯磨き指導など、生徒の健康への意識改善につながった。 ・体育の授業及び特別活動の時間に体力づくりを多く取り入れることで生徒の健康維持や体力向上を促進した。</p> <p>(5) 徹底した感染症予防対策により感染者ゼロを維持できている。教職員や生徒の感染症防止への意識が高い。</p>
<p>進路指導</p>	<p><b>目標：系統的なキャリア教育の推進</b> <b>方策と数値目標：キャリア講演会年2回以上</b></p> <p>(1) 入学から卒業までのキャリア教育の全体計画に基づき、生徒が希望する進路の高いレベルでの実現に向けて、「最後まであきらめない」進路指導・進路学習を実践する。</p> <p>(2) 生徒の進路希望を高いレベルで実践するため、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた基盤となる非認知能力や態度を育成する。</p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」においてキャリア教育を見据えたプログラムを導入し、計画的に運営している。入学時から卒業後の進路選択が的確にできるように自己理解や職業教育を積極的にこなした。</p> <p>(2) 「コミュニケーション力」「責任感」「問題解決力」「公共性」などの非認知能力の育成について、各教科や分掌で研究し、1年間かけて成果報告書をまとめ、全員で共有することができた。</p>
<p>特別活動等</p>	<p><b>目標：特別活動の充実化とリーダーの養成</b> <b>方策と数値目標：部活動全員加入</b></p> <p>(1) 各部活動の年間活動計画を策定し、安全で発達段階に応じた指導体制のもと、活性化を図る。</p> <p>(2) 生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り、愛校心や帰属意識を高めさせるとともに、「コミュニケーション力」と「段取り力」を身に付けさせる。</p>	<p>(1) ・生徒の行事参加率80%を超え、高い水準を維持することができた。 ・部活動の加入率は104%と昨年引き続き高水準であり、都定通陸上競技大会に5名参加し、良い成績を収めた。次年度も継続するため日々の部活動を更に活性化させたい。</p> <p>(2) ・昨年に引き続き、生徒会執行部ミーティングでは、生徒会主体による各行事の立案、実行、反省といった生徒主体の活動を行うことができた。先輩から後輩への引継ぎもしっかりできた。 ・出席率を更に高め、生徒全員参加を目標に、行事の内容や準備に工夫をしていく。</p>

<p>家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動</p>	<p><b>目標：IT や経営資源を活用した地域や保護者との連携強化</b>  <b>方策や数値目標：HP 更新月 4 回以上、島外保護者会年 2 回開催</b></p> <p>(1) Twitter と新ホームページの更新により、タイムリーな情報提供に努め、広報活動の充実を図る。</p> <p>(2) 意図的、計画的な八高島留学生フォーラム等を実施して島外での広報活動を強化する。</p> <p>(3) 学校運営連絡協議会及び学校サポートチームを活性化させ、支援を定着させるとともに、募集・広報活動等、地域の学校理解の強化を図る。</p>	<p>(1) ホームページ、Twitter を随時更新し、学校の広報活動を活性化した。また令和 4 年度の学校案内やホームページのリニューアルの準備をしている。</p> <p>(2) ・「島留学フォーラム・島外保護会」を年 3 回開催し、学校の魅力の発信ができた。今後は島外生徒の獲得にむけて更に広報活動を深めたい。  ・「八高進学説明会」を新たに 11 月に開催し、高校選択の正しい理解について中学校と共有することができた。</p> <p>(3) 年 3 回の学校運営連絡協議会を開催し、(第 3 回は書面開催)、運営委員の方々の全員出席と、貴重な意見交換会ができた。今後の学校運営に活かしたい。</p>
<p>学校経営組織体制</p>	<p><b>目標：学校経営の適正化</b>  <b>方策と数値目標：週当たり超過勤務 60 時間超の教員ゼロ</b></p> <p>(1) 企画調整会議・教科会を中心とした学校経営を行い、主幹教諭及び主任教諭を中心として、組織的に職務を遂行し適正な学校運営を行う。</p> <p>(2) ライフ・ワーク・バランスに配慮した勤務環境のもとで業務の効率化を図る。</p> <p>(3) 経営企画室による学校経営参画を進め、教育系職員と行政系職員とが連携して学校運営にあたる。</p> <p>(4) 管理職及びミドルリーダー層のマネジメント能力を向上させ、組織的な学校経営の強化を図る。</p>	<p>(1) 企画調整会議や教科会、職員研修を実施し、組織的な職務遂行と服務防止が達成できている。</p> <p>(2) 徹底した定時出勤・定時退勤によりライフ・ワーク・バランスが達成できている。年休取得推進も継続中である。超過勤務 60 時間を超える教員はゼロである。</p> <p>(3) 経営企画室との情報共有により教育系職員と行政系職員の連携した学校運営ができている。</p> <p>(4) マネジメント研修を受講することで副校長として果たすべき役割や学校経営について、深く学ぶことができた。主幹教諭による組織的 OJT により若手教員の指導力、授業力が向上している。</p>

(2) 重点目標達成率と次年度以降の課題と対応策

◇ 学習指導

- 授業の満足度（肯定的評価）数値目標 令和3年度目標 100%（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
98%	98%	96%	96%
(次年度への課題) ICTを活用した「学びたくなる授業」の定着を更に深める。			

◇ 生活指導・健康づくり

- 部活動加入率 数値目標 令和3年度目標 100%（達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
221%	172%	112%	104%
(次年度への課題) コロナ禍における部活動の活性化(大会への参加、生徒主体の活動)			

◇ 進路指導

- 卒業時の進路決定率 数値目標 令和3年度目標 100%（達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
100%	100%	100%	100%
(次年度への課題) 4年間を通じて生徒の適性を踏まえた指導の充実を図る。			

◇ その他の教育活動における 数値目標

- 中途退学者（進路変更者） 令和3年度目標 0名（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
2名	2名	0名	2名
(次年度への課題) 入学前の学校との連携体制の充実と、生徒一人一人に対応した支援策を図る。			

- HP・Twitter 更新回数 令和3年度目標 月4回以上（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
—	131・111	63・64回	38・65回
(次年度への課題) コロナ禍のため多く更新することができなかった。次年度は増やしたい。			

- 週あたり超勤時間 60時間超の教員ゼロ 令和3年度目標 0名（達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
1名	1名	1名	0名
(次年度への課題) 業務内容の見直し、会議時間の削減と効率化を推進し、定時			